

「復活(5)」

ヨハ20:19~31

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 週の初めの日(日曜日)に、イエスは復活された。
- ② 聖書は、復活のイエスの出現を10回記録している。
 - * 復活の当日(日曜日)に5回
 - * それ以降の40日間に5回

(2) 復活のイエスの顕現

- ① マグダラの MARIA に (マコ16:9~11)
- ② 女たちに (マタ28:8~10)
- ③ エマオ途上の2人の弟子たちに (ルカ24:13~32)
- ④ ペテロに (ルカ24:34)
- ⑤ トマスを除いた使徒たちに (ヨハ20:19~25)
- ⑥ トマスを含めた使徒たちに (ヨハ20:26~31)
- ⑦ ガリラヤ湖畔で7人の弟子たちに (ヨハ21章)
- ⑧ 500人以上の信者たちに (1コリ15:7)
- ⑨ ヤコブに (1コリ15:7)
- ⑩ オリーブ山で使徒たちに (使1:3~12)

(3) 今回は、5回目と6回目の現れをしてみる(1週間の間隔があいている)。

(4) A. T. ロバートソンの調和表

- §178 トマスを除いた使徒たちへの現れ
ヨハ20:19~25、ルカ24:36~43
- §179 トマスを含めた使徒たちへの現れ
ヨハ20:26~31

2. アウトライン

- (1) 復活のイエスの現れ
- (2) 弟子たちの信仰
- (3) トマスの信仰
- (4) この書を書いた目的

3. 結論:

- (1) 「見ずに信じる者は幸いです」
- (2) 「平安があなたがたにあるように」

使徒たちの体験について考えてみる。

I. 復活のイエスの現れ

1. 19～20節

Joh 20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」

Joh 20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

(1) 状況説明

- ①日曜日の夕刻(あるいは夜)のことである。
- ②弟子たちは夕食のために集まっていた。恐らく過越の食事をした二階部屋。
- ③彼らは、クレオパともうひとりの弟子の証言を聞いたばかりである。
- ④彼らはまだエルサレムにいる。ガリラヤに向かっていない。
- ⑤ユダヤ人たちに恐れて、部屋に鍵をかけて閉じこもっている。
 - *彼らは、イエスとともに逮捕されそうになった。
 - *彼らは、ユダヤ人の指導者たちを恐れている。
 - *彼らは、死を恐れている。
 - *7週間後のペンテコステの日の彼らの姿とは全く異なる。
- ⑥イエスは、恵みのゆえに彼らの前に現われる。

(2) イエスの現れ

- ①締め切った部屋に入って来られた。
 - *復活の体は異次元の体である。
 - *しかし、十字架上で死ぬ前の体との継続性がある。
- ②彼らの中に立たれた。
- ③「平安があなたがたにあるように」と言われた。
 - *「シャローム・アレヘム」であろう。
 - *ユダヤ人の通常のあいさつであるが、ここではより重い意味を持っている。
- ④その手とわき腹を示された。
- ⑤弟子たちは喜んだ。しかし、最初は恐れた。

II. 弟子たちの信仰

1. ルカ 24 : 37~43

Luk 24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

Luk 24:38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。」

Luk 24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

Luk 24:41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

Luk 24:42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

Luk 24:43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

(1) イエスは弟子たちの不信仰をしかった。

①ガリラヤに行くように3度言われていたが、エルサレムに留まっていた。

②イエスを見たという人たちの証言を信じるができなかった。

*婦人たち

*クレオパともうひとりの弟子

*ペテロ

③実際にイエスを見ても、恐れて、それを霊だと思った。

(2) イエスは、自分の手と足を見せ、霊ではなく肉体を持っていることを示した。

①それでも彼らは、うれしさのあまり信じられず、不思議がっていた。

(3) イエスは、焼いた魚を食べた。

①霊は食べることができない。

②この時点で、弟子たちは大喜びし、イエスの復活を信じた。

2. 21~23 節

Joh 20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

Joh 20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

Joh 20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」

(1) イエスは弟子たちに御子の権威を授けた。

①イエスは父の権威を受けて派遣された。

②弟子たちは、イエスの権威を受けて派遣される。

*これが大宣教命令と呼ばれるものである(マタ28:18~20)。

(2)「聖霊を受けなさい」

①イエスは息を吹きかけた。使2章では、聖霊が風のように下った。

②しかし、ここでの聖霊の付与は、使2章の聖霊によるバプテスマとは異なる。

③これは、みことばを理解させる力の付与であろう。

*7週後のペンテコステまでの一時的な賜物と考えるべきである。

④ルカ24:45~47

Luk 24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

Luk 24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

Luk 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

(3) かつてペテロに与えられた使徒的権威が、全員に与えられた。

①「罪を赦す、罪を残す」とは、救いに関することではない。

②これは、新約時代の信者の行動規範に関することである。

3. 24~25節

Joh 20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一っしょにいなかった。

Joh 20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言った。

(1) トマスはその場にいなかった。

①理由は分からない。

②不在が責められるのではなく、不信仰が責められるべきである。

(2) ほかの弟子たちの証言を信じなかった。

①彼は、実証主義者である。

②しかし、これは合理的な態度ではない。

③科学者でも、見えないものや触れないものの存在を信じている。

(3) 弟子たちは、それ以降のガリラヤに向けて旅立たない。

①恐らく、トマスのゆえであろう。

Ⅲ. トマスの信仰

1. 26～27節

Joh 20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一しょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。

Joh 20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

(1) 状況説明

- ①8日後の日曜日である。
- ②弟子たちはまだエルサレムに残っている。
- ③今度は、トマスもともにいた。
- ④イエスは再び、恵みのゆえに彼らに現れた。

(2) トマスへの言葉

- ①トマスの願いに答えた。
- ②愛の溢れることばを語った。

2. 28～29節

Joh 20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

Joh 20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

(1) 「私の主。私の神」

- ①ヨハネの福音書のサブテーマの一つが、信仰と不信仰の対比である。
- ②イエスの敵の不信仰は進展し、最後は十字架刑でクライマックスを迎える。
- ③弟子たちの信仰も進展し、最後はトマスの信仰告白でクライマックスを迎える。
- ④重要なのは、イエスがトマスの礼拝を受け入れたことである。

(2) イエスの有名なことば

「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです」

IV. この書を書いた目的

1. 30 節

Joh 20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。

- (1) ヨハネは、共観福音書に記された奇跡をよく知っていた。
 - ①4つの福音書には、35の異なった奇跡が記されている。
 - ②ヨハネは、7つの奇跡(しるし)を選んで記録した。
- (2) 現代人は、奇跡の記録を無視したり、合理的に説明しようとしたりする。
 - ①イエス時代の人たちには、それは不可能なことであった。
 - ②彼らは、数多くの奇跡を現実に目撃したのである。

2. 31 節

Joh 20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

- (1) ヨハネが福音書を書いた目的が記されている。
 - ①イエスが神の子キリストであることを信じるため。
 - ②信じて、イエスの御名によっていのちを得るため。

結論：

1. 「見ずに信じる者は幸いです」

- (1) トマスも含めて、使徒たち全員が見たから信じたのである。
- (2) イエスは、信者の信仰を励ますために、ある体験をさせることがある。
- (3) しかし、体験によって判断するよりも、みことばによって判断するのがよい。
 - ①体験は、みことばに照らして吟味する必要がある。
- (4) イエスは私たちの不完全さをよくご存じである。
 - ①それゆえ、私たちのいるところに降りて来て、語りかけてくださることがある。
 - ②トマスの場合がその好例である。
- (5) 信仰を強める体験は、主から与えられた恵みであって、みことば以上の価値を有するものではない。

2. 「平安があなたがたにあるように」

(1) 通常のあいさつのことばが、深い神学的意味を持つようになった。

①イエスの死の前と後では、「平安」の内容の重みが違う。

(2) ヨハ14:27

Joh 14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

(3) ヨハ16:33

Joh 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(4) ロマ5:1

Rom 5:1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

(5) ピリ4:7

Php 4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。